

●STEP3 防災マップを作ろう！●

◆作業の流れ

- 1. 作業の準備
- 2. 「まち歩き」の整理
- 3. 意見交換
- 4. 防災マップの完成

◆用意するもの

- チェックシートと点検マップ（個人メモ）
- まち歩きで撮った写真
- 地図（会場作業用）
- 模造紙（新聞見開き2枚程度の大きさ）
- 工具箱
- 丸シール（5色程度）
- 大きめのふせん紙（3色程度）



1. 作業の準備

テーブルの上に地図（会場作業用）をセットします。

プリンターで写真をプリントアウトします。（プリンターが無い場合は、ポラロイドカメラを使うとよいでしょう）



ワンポイントアドバイス

お茶やお菓子を配って、「まち歩き」で疲れたみなさんに休憩をしてもらいましょう！

2. 「まち歩き」の整理

「まち歩き」で撮った写真を地図上に貼り付けます。

プリンターが無い場合は、写真の貼り付けは後日でもOKです。

班で見てきた内容を話し合いながら、地図に書いていきましょう。

凡例にある内容は、凡例の番号をシールに書き、地図へ貼り付けます。

「安全な場所」には・・・・・・・・青のシール

「災害時に役に立つ場所」には・・緑のシール

「危険な場所」には・・・・・・・・赤のシール

「その他気付いた場所」には・・・黄のシール

その他気付いた場所には、どんな場所なのかのコメントを記入して下さい。

特に気になった部分の写真にコメントを記載して貼り付けるなど、工夫して皆にわかりやすい地図を作りましょう。

1 班

凡 例

1	広い空間
2	広い駐車場
3	公園・広場
4	高いところ
5	消火栓・消火機
6	防犯灯
7	防火水槽・井戸・水道
8	消防機庫
9	公衆便所
10	公衆電話
11	病院・医館
12	薬局
13	防災資材のある店
14	コンビニエンスストア・スーパー
15	掲示板 放送
16	狭い道
17	行き止まり
18	危険な道 場所
19	倉庫 倉庫
20	災害貯蓄(貯蔵)
21	医療機関(診療所)
22	福祉センター(福祉)
23	液状化
24	入り口
25	空家 空き家
26	湧き
27	溜池 溜池
28	鉄筋コンクリートの建物
29	岩水
30	その他

気になる部分の写真を貼り付けています。

その他みんなが気付いたことを書いています。

3. 意見交換

普段なにげなく歩いていた場所が、視点を変えて歩いてみたら危険だなあと気付いたりします。

このように、まちの様子がわかったら、それについて話し合みましょう。

順番に一人ひとりが発言していくと、参加者全員が話し合いの場に参加できます。

〔意見交換の詳しい方法は、【意見交換のテクニック】(27頁)を参照〕



ワンポイントアドバイス

お茶やお菓子を食べながら、楽しく、ワイワイと進めても良いでしょう！

班ごとに、まち歩きの整理や意見交換の内容を発表しましょう。



4. 防災マップの完成

作成した防災マップをもとに、A3サイズ程度の用紙に清書し、必要箇所に配布します。

できれば、地域内の全世帯に配布するのが望ましいでしょう。

余白部分を利用して、地域独自の情報や緊急連絡先などを追加すればより便利です。



3 災害図上訓練(DIG)で地域の防災力を高めよう！

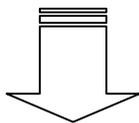
いざという時、自分の住んでいる地域にはどんなことが起こり、どんな状況になるか、揺れや家屋の倒壊、津波、山や崖崩れ、そして、それらによって起こりえる生き埋めなどの被害を具体的にイメージすることで、地域の防災力はぐんと高まります。そうした状況の中で、いかにパニックに陥らず、いかなる対応や対策をとれば安全か、日頃から何をしておくべきかをみんなで話し合います。

D I GとはDisaster（災害）、Imagination（想像）、Game（ゲーム）の頭文字を取って名づけられたもので、大きな地図を全員で囲み、地図に色を塗ったりマークを付けたりしながら、災害時のイメージトレーニングを積み、簡単で取り組みやすい方法です。

一人で考えて心配事を増やすのではなく、みんなで考えることで前向きな解決方法を見つけることができます。

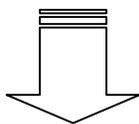
●災害図上訓練(DIG)の進め方フロー●

STEP 1 DIGを計画しよう！



「D I G」に向けて、玉野市と被害の想定を確認したり、道具の準備や会場の段取りなどを行います。

STEP 2 みんなでDIGを理解しよう！



D I Gとは何か、D I Gのルール、進め方などについて説明し、参加者の理解を深めます。

また、想定された災害の種類や被害の状況など把握、確認します。

STEP 3 災害時のイメージを地図に落としてみよう！

地図に色を付けたり、安全な場所や危険な場所などに印を付けながら、まちの特性を把握します。

また、でき上がった地図を見ながら、防災に対する地域の特徴を確認し、参加者全員で意見を共有します。

●DIGの効果●

DIGとは

DIGの効果として、「災害を知る」「まちを知る」「人を知る」の3つが挙げられます。

DIGをやってみると、わがまちに起こりうる災害の姿をより具体的にイメージできます。また、意外なほどわがまちのことを知らなかったことに気付くことでしょう。そして、DIGのワークショップを通じて、参加者同士の距離がいつの間にか近づいているという、まちづくりをする上でもっとも大切な人と人の関係が育まれていきます。

DIGの効果

■ DIGで災害を知る！

防災を考える上でまず必要なのが、自分の地域で起こりうる災害の様相を認識することです。

「どこで、どのような規模で、どういう被害の発生が予想されるのか」

自分で地図に書き込んでいくうちに、災害をより具体的にイメージできるようになるはずで
す。

■ DIGでまちを知る！

普段の生活の中で地図と接する機会はそんなに多くはありません。でも、地図にはさまざまな
情報があります。

「自然条件はどうなっているのか」

「まちの構造はどうなっているのか」

「対策に必要なものはどこにあるのか」 など

地図に具体的な要素を書き込んでいくにつれて、自然と地域を見直し、自分の住むまちがど
のようなまちなのかを理解できるようになってきます。そして、自分のまちの災害に対する
強さや弱さがより身近なものとして感じられてきます。DIGが「わがまち再発見」と言わ
れるのはこのためです。

■ DIGで人を知る！

DIGでは

「いざという時に頼りになる人はどこにいるのか？」

「近所に手助けが必要な人はいないか？」

などの情報を地図に書き込んでいきます。

この人的な要素の書き込み作業は、まちの「財産目録」を作ることになります。

それに加え、しかめ面ではなく「ワイワイ、ガヤガヤ」とみんなで災害救援について熱く語
り合っているうちに連帯感が生まれ、信頼関係が育れます。

また、DIGの準備のための作業も、地域の防災ネットワークづくりに最適です。

●STEP1 DIGを計画しよう! ●

◆作業の流れ

- 1. 被害状況の想定
- 2. DIGの日時の決定
- 3. 参加人数の予測とPR
- 4. 会場の手配
- 5. 地図の用意
- 6. 準備物の手配
- 7. スタッフの役割分担と当日のスケジュール

◆用意するもの

- DIGに必要な文具、地図、シートなど
〔STEP2(19頁)・STEP3(22頁)を参照〕

1. 被害状況の想定

被害状況の想定をしましょう。〔STEP2(21頁)参照〕

2. DIGの日時の決定

できるだけ、地域のみなさんが参加しやすい日や時間を決定しましょう。

リーダー研修を受けた人が班にいると進めやすいので、その人達が参加できるように事前に調整すると良いでしょう。

DIGは、さまざまな想定(時間帯、季節、参加者の立場)で行うとより良い方法です。無理のない範囲で、何度か開催すると良いでしょう。

3. 参加人数の予測とPR

「まち歩き」の時と同じように、地域の規模などから参加人数を想定しましょう。

幅広い意見を聞くためには、女性や子供の参加も大切なので、回覧板やチラシ作成など呼びかけの工夫をしましょう。

学校や婦人会等への呼びかけも必要かもしれません。

4. 会場の手配

「まち歩き」の時と同じように、予測された参加人数から会場を手配しましょう。当日は地図を広げてみなさんで作業をします。新聞見開き(A0)程度の地図が広げられる機が必要です。〔STEP2(19頁)の会場セッティング参照〕

5. 地図の用意

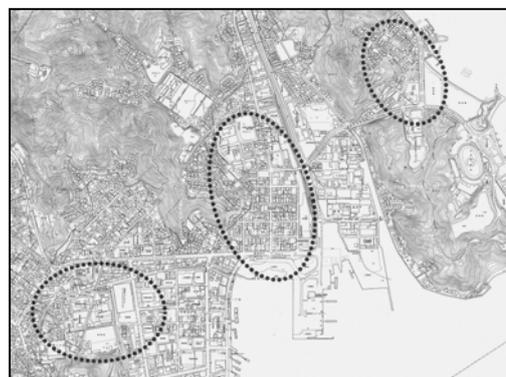
地図の大きさは、班で囲んで作業がしやすいように、新聞見開き2枚(A0)~畳1畳分を目安とします。

「まち歩き」の時に作った地図も用意しましょう。



ワンポイントアドバイス

地図が手に入りにくい時は
玉野市に相談しましょう！



6. 準備物(道具箱など)の手配

参加者全員で地図上に書き込みしたり、まとめなどの作業をします。これら作業に必要な道具を準備しましょう。〔STEP3(22頁)の用意するもの参照〕

7. スタッフの役割分担と当日のスケジュール

スタッフは、全体の進行役に1名、班ごとのまとめ役に1名を決定して、当日の流れを把握しておきましょう。

次に、当日の時間割を作りましょう。

準備と班分け、DIGの説明に1時間、DIGの作業に1時間~1時間半を目安とすると良いでしょう。

●STEP2 みんなでDIGを理解しよう! ●

◆作業の流れ

- 1. 会場のセッティング
- 2. 班分け
- 3. DIGの説明と災害イメージの明確化
- 4. ルールの説明
- 5. 想定被害状況の発表

◆用意するもの

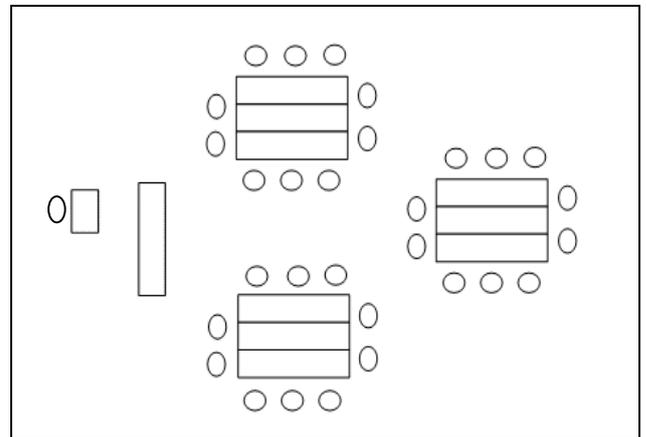
- DIGの概要説明資料
- 想定被害シナリオ

1. 会場のセッティング

会場に到着したら、机や椅子などの会場準備とDIGに必要な道具を並べます。

1班は6～10名程度です。テーブルをつなぎ合わせて、作業がしやすい大きさにセットします。

(右の会場セッティング例を参照)



2. 班分け

6～10名程度を目安に参加者を各班へ誘導します。その時に、各参加者へ名札を配り、名前を記入してもらうと良いでしょう。



ワンポイントアドバイス

仲良しグループでかたまりすぎないように班分けに気をつけましょう!

3. DIGの説明と災害イメージの明確化

DIGを始めるにあたり、DIGを知らない参加者がいても、これから何をするのかのイメージを持ってもらうことが必要です。

ここでは、資料を使って、DIGとは何か、これから何をやるのかを簡単に説明します。

できれば、参加者に災害のイメージを持ってもらうため、災害のビデオや写真などを見てもらいましょう。

市役所や図書館に、災害に関するビデオがあります。また、インターネット等で災害に関する写真や情報を探してみるのもよいでしょう。



4. ルールの説明

DIGを進めるにあたってのルールを説明します。DIGでは、意見交換を行いながら、みんなで楽しく作業をします。そのため、堅苦しいルールはありません。楽しく、自由にかつ活発に意見を交換できる雰囲気づくりを意識することがルールとなります。

〔意見交換の詳しい方法は、【意見交換のテクニック】(27頁)を参照〕

5. 想定被害状況の発表

事前に想定した被害状況(発生事実、地震情報、建築・火災・人的被害等)を発表します。

次に、災害に伴う、道路や鉄道の被害状況を発表します。

※DIGにおける被害想定は、実際に災害が発生した場合の一般市民の災害対応に対する刷り込みとなる可能性があります。そのため、ある程度の幅はあるとしても、現実的な数字を示せるよう、関係機関との確認・調整が必要です。

DIG用 被害状況の想定 参考資料

紀伊半島沖を震源地とするマグニチュード8.6の巨大地震が発生し、玉野市は最大震度「6弱」を記録し、その後も大きな余震が続いて沿岸部には津波も来襲した。

この地震と津波により、家屋が倒壊し火災が発生、また山ぎわ地域では崖崩れ等が多発し、さらに市内全域で道路やライフライン等に甚大な被害が発生している。

●災害の想定：2000年〇月〇日(日) 8:30

●地震情報：震源は紀伊半島沖 規模はマグニチュード8.6

玉野市は最大震度「6弱」を記録した。別紙参照(岡山県HP)

<http://kikikanri.pref.okayama.jp/gcon/pdf/bo33gnsoshiki2.pdf>

★震度6弱の地震

- ・立っていることが困難になる。
- ・固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。
- ・かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。
- ・耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。
- ・耐震性の低い建物では、壁や柱が破壊するものがある。耐震性の高い建物でも壁、梁(はり)、柱などに大きな亀裂が生じるものがある。
- ・家庭などにガスを供給するための導管、主要な水道管に被害が発生する。

[一部の地域でガス、水道の供給が停止し、停電することもある。] 地割れや山崩れなどが発生することがある。

気象庁HPより <http://www.kishou.go.jp/know/shindo/kaisetsu.html>

●建物被害：玉野市/全壊170戸、半壊180戸、一部損壊230戸、

ブロック塀倒壊460カ所

※あなたの地域はどのくらい?

●主な土砂崩れ：山ぎわ地域では崖崩れ等が多発。

●火災：市内全域 約10箇所では火災若しくは爆発事故が発生

●人的被害：市内全体で 死者 9名